

令和2年度(2020年度)事業計画

➤ 総務部

- 1.認定 NPO の認証の取得
- 2.理事会・部長会議の計画的実施
- 3.組織内共有ツールの整理
- 4.社内ルールブックの策定

➤ 子育て環境改善部

◆企画制作チーム

1. 子育て情報誌「おやこ DE わはは」(vol.90～vol.96)
2. LINE@の有効活用
3. ホームページ・バナー、SNS 等有効的活用、メディア(ラジオ、高松ケーブル)
4. ママ∞フェスタ 2020
5. 防災について
6. 縁結び・子育て美容-eki
7. その他

◆事業推進チーム

1. 高松市 令和2年度版子育てハンドブックの協働発行事業(新規)
子育てハンドブック「らっこ」
2. 高松市 子育て支援総合情報発信事業(継続)
・子育て支援総合情報サイトの管理
・「ひとり親」サイトの管理 ・「ひとり親」冊子改訂増刷作業
3. 香川県 子育て支援人材養成事業
4. 香川銀行 育休プログラム
5. 香川県 「イクケン香川」たまご育て事業
6. 仕事と子育ての両立にかかわり事業の新規開発(新規)

➤ 子育て支援部

- わはは・ひろば坂出
- わはは・ひろば高松
- わはは・ひろば香西
- 指定管理事業「まるっ子ひろば」(さかいで子育て支援センター)
 - ・自主事業
 - ・「まるっ子ひろば」子育てひろば
 - ・「まるっ子ひろば」一時預かり事業
 - ・「まるっ子ひろば」坂出コーディネーター事業
- 地域子育て支援コーディネーター事業

令和2年度(2020年度) 事業計画

新型コロナウイルスにより、これまで私たちが大切にしてきた「顔の見える関係」「手を差し伸べればつながる支援」の根本を見直さざるを得ない年度の始まりになりましたが、思いのほかそれぞれのチームが一致団結し今できることを必死で考え、速やかに行動に移しているのを目の当たりにし、頼もしく大きな可能性を感じています。

状況的には事業部を中心にやりたくてもできないことが増え事業としてのダメージは大きいと予想されますが、このピンチをチャンスに変えていく取り組みをこれまでの取り組みにこだわらずスピード感を持ってチャレンジしていかなければと思います。

また「さぬきおもちゃ美術館(仮)」2022年度オープンに向けての具体的なスケジュールもようやく見えてきました。ひとり一人が自分の役割+αで考え、目先のことだけでなくその先のイメージも共有できるよう努めたいと思います。

部門	チーム		目標数(人)	ページ	
総務部		寄付 他	200	7	
		木育キャラバン	600		
子育て環境改善部	企画制作チーム	ママ∞フェスタ 情報誌 オンライン事業 (LINE@、WEB 閲覧) 美容-eki	8,000 25,000 12,100 350	9	
	事業推進チーム	高松市らっこ冊子 高松市らっこ 支援員研修 育休プログラム たまご育て事業 仕事と子育ての両立 に関わる事業	10,000 3,000 150 60 1,045 50	11	
子育て支援部	坂出ひろば		5,500	13	
	高松ひろば	地域子育て支援拠点	6,500	15	
	香西ひろば		6,800	17	
	まろっ子ひろば	館運営		14,000	19
		地域子育て支援拠点		10,000	21
		一時預かり事業		580	23
利用者支援事業			1,200	25	
地域子育て支援コー ディネーター	利用者支援事業		5,500	27	
合計			110,635		

総務部

《令和2年度 事業計画》

わははネット チーム別事業目標(目標書式Ⅱ)

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
総務部	※ 円	2人	寄附 200人 1,000,000円

【年度の行動目標】

2020年度

主	目標達成に最大限に機能する組織づくり	今期の重点行動予定	SDGs 関連
重点項目	① 認定 NPO 認証の取得	総会後速やかに認定申請を進める。認定 NPO 取得後は、内部・外部に向けて発信できるツール作成 (HP、リーフレット)	17
	② 理事会・リーダー会議の計画的実施	理事会・リーダー会議実施についても、年間計画を策定し実施していく。実施にあたっての、時期・内容等については理事で確定をする。	8
	③ 組織内共有ツールの整理	メーリングリスト、ライングループ、サイボウズ、電話で行われている情報共有の仕組みを整理。必要な部分において、システムチェックに物事が進められるようにする。	10
	④ 社内ルールブックの策定	都度都度積みあがってバラバラしているルール(例:出張について、勤務について、入退社の際...)をルールブックに落とすことで、組織内のルールの徹底を図る。	8.10

【事業チームとしての行動計画】

・【外務に向けて】

認定 NPO の認定を速やかに取得することを目指す。同時に、取得後にそれを広く周知していくために、ホームページのページ作成、リーフレット作成を進める。7 月初旬までにツールの作成を完了し、認定取得後すぐに公開できるように準備をする。

・【内部に向けて】

情報共有ツール、社内ルールブック、会議の計画、研修計画、目標管理制度の運用等、よりどころとなる計画書、ルールブック等を整え、情報の見える化に取り組む。すべてのスタッフが同じ情報を共有しながら、目標に向かって進むことができる基盤を整える。

また、それぞれがスムーズに運用できるように、情報共有の機会を持つ。

【計画達成へのポイント】

理事会と連動しながら、仕組みの部分を総務部として作り上げていく。

内部の仕組みについては、リーダー会議等で、スタッフの声も聞きながら、より活用できるものにしていく。

※(別添資料1) 総務部年間予定カレンダー

子育て環境改善部 企画制作チーム

《令和2年度 事業計画》

わははネット チーム別事業目標(目標書式Ⅱ)

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
企画制作	15,554,900 円	3人	45,450 人

【年度の行動目標】

2020 年度

主	目標達成のための安定したチーム作り	今期の重点行動予定	SDGs 関連
重点項目	子育て情報誌『おやこ DE わはは』(Vol.90～Vol.96)	<ul style="list-style-type: none"> ・経費削減を徹底する。 ・確実に子育て家庭の手に届けられる配本を再検討する(全戸配布、後援など)。 ・オンライン配信と紙媒体の連動について見直し確実に読者の目に留まる手段を検討する。 	3.4.5.8.10.11.12.13.14.15.16.17
	(新規)オンライン事業	line@を活用し、情報誌の広告主含め企業が発信したい内容をママ目線で伝え、広告収入に繋げる仕組みづくり。新規クライアント獲得につなげる。	11.12.17
	ホームページ・バナー、SNS 等有効的活用、メディア(ラジオ、高松ケーブル)	情報誌とホームページが相互に発信力をもち、効果が出るようにホームページの構成など見直しを行う。ホームページの内容の見直し。	
イベント	ママ∞フェスタ 2020	スケジュールの見直しを行い、実施にあたっての業務体制を見直す。売り上げ目標達成を目指す。	4.5.10.11.12.17
	防災について	家庭防災について考える機会を作る。	4.11.12.17
委託	縁結び・子育て美容-eki	チームで担当業務の細分化を行い、確実に業務を遂行する。	8.11.17
	その他	情報誌制作や SNS をより効果的に活用できるように、情報収集の仕方を考える。乳幼児の子育てをしている人の生の声を聞く機会を持てるようにする。	12.17

【事業チームとしての行動計画】

- ・早めの記事制作計画、営業計画を行う。そのために計画的、戦略的に行動がとれるようにコンテンツ会議を行う。定例のミーティングとは別に 営業会議は 2 週間に 1 回、制作会議は月に 1 回、イベント会議は月に 1 回しっかり時間を確保する。
- ・配本先の見直し、発行部数、ページ数など情報誌の仕様見直しを行い下期を目途に実行できるよう努力する。
- ・チームスタッフの業務の細分化を行い担当が明確になるようにする。また、年間～週間までのスケジュールを確立することで作業を明確化し、担当者が業務に対しての目標をたて、自立して進捗管理できるようにする。
- ・外部への認知度を高めるため、紙媒体以外でのアプローチ手段としてオンラインの活用について考える。新規クライアント獲得に繋げるためにも登録者数を増やすため企画を考える。
Line@の登録者数は 2000 名を目標にする。
- ・わははネットについての勉強会を月 1 回実施。わははネットのこれまでをより深く知ることによって外部への交渉を自信を持って行えるようにする。

【計画達成へのポイント】

- ・業務ごとの仕組みを確立し、役割を明確化したうえで情報を共有していく。理事や上長と密に連携を行う。
- ・定期的に会議を行うことで業務遂行に担当者の不安がないようにしていく。
- ・外部の声を広く聞きやすい環境づくりを行う。

子育て環境改善部 事業推進于一ム

《令和2年度 事業計画》

※別添資料参照

子育て支援部(わはは・ひろば坂出)

《令和2年度 事業計画》

わははネット チーム別事業目標(目標書式Ⅱ)

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
わはは・ひろば坂出	8,152,000 円	4 人	5,500 人

【年度の行動目標】

2020 年度

主	わはは・ひろば坂出をもっと知ってもらおう!!	今期の重点行動予定	SDGs 関連
重点項目	① まだ知らない人にひろばの情報を届ける	・健診チラシにカードプレゼントチラシを加える。 ・産婦人科用チラシを通信に追加。 ・インスタの活用。 ・通信配布箇所を増やす。	3・11
	② 初めての人が利用しやすいイベントづくり	・転勤ママ、同級生など、仲間づくりのできる会の開催。 ・デビューデーで「ようこそひろばへカード」作成。 ・助産師さんの協力を得て、プレママ向けイベント実施。	3・4・11
	③ スタッフの連携を図る	・週2回のミーティングや振り返りを通して、共通理解や業務進捗状況の共有を図る。	3
	④ スタッフが地域を知り、地域に開かれたひろばを目指す	・地域の行事に参加したり、季節の行事に合わせて地域の方に来ていただいたりする機会を増やす。 ・ひろば外での絵本読み聞かせ会実施。	3・4・5・8 11
	⑤ 駐車場利用料金の減免に向けて取り組む	・利用者さんとともに、近隣駐車場の料金減免に向けて何ができるか考え、実行する。	11

【事業チームとしての行動計画】

- ① インスタを活用して新規利用者数増に取り組む。そのため、スタッフで SNS での情報提供について学ぶ機会をもつ。
- ① 利用きっかけがインスタ 昨年度 1 人→5 人を目指す。
- ① 通信配布箇所 5 か所増にむけて取り組む。
- ④ 育休復帰後の親子も利用しやすいよう、土曜ひろばの月 2 回開催。
- ⑤ 近隣駐車場利用料減免に向けて、目安箱への意見投稿など利用者さんとともに活動。

【計画達成へのポイント】

・インスタでの広報強化や駐車場確保についても、どのように進めていくかスタッフ間で話合うだけでなく、利用者さんを巻き込んで一緒に活動を進めていくことが必要と考える。利用者さんの意見も取り入れながら、次期目標達成に向けて取り組んでいく。

子育て支援部(わはは・ひろば高松)

《令和2年度 事業計画》

わははネット チーム別事業目標(目標書式Ⅱ)

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
子育て支援部 わはは・ひろば高松	8,152,000 円	3 人	6,500 人

【年度の行動目標】

2020 年度

主	妊娠期からの利用促進	今期の重点行動予定	SDGs 関連
重点項目	① ひろば利用を促す情報発信	妊婦がひろばを利用していることがイメージできるように、定期的にひろば見学会をする。	3
	② 来館数を増やす	妊婦さんにとりまく(祖父母・夫)誰もが来やすい環境設定をすることで日常的に来館してもらえるようにする。	4.5
	③ 県内の認知度を上げる	わははネットの媒体(LINE@・情報誌)等にイベントの日程を掲載する。	11
	④ 仲間づくり	妊娠期を楽しめるようなイベントの開催をする。また産後の仲間づくりができるようにする。	3
	⑤ 地域連携	産婦人科・地域店舗に妊娠中に利用できる施設としてひろばがあることを知ってもらう。	11

【事業チームとしての行動計画】

プレママ登録数のうち 50%の継続利用(月1回程度)を目標とする。

①②6.9.11.2 月の休日にひろばの見学会実施し併せて助産師やコーディネーターと連携し内容を企画。産後の子どもの様子や育児の知識を夫婦で習得し、共に子育てができるような内容にする。

・継続的にひろばでの様子をSNSで発信する。

・妊婦対象の常田先生の子育て座談会の実施。子どもへのかかわり方についての座学をお願いする。(5月)

・各イベント全てにプレママ枠(各2組)を作る。

③わははネットの媒体やたかまつ広報でも、イベントの告知掲載し、就労中の方にも情報が届くようにする。

④子育ての仲間づくりができるように、母の楽しめる時間を作る。

⑤産婦人科(森・日赤・サンフラワー)でのパパママ教室でパンフレットの配布依頼をする。

【計画達成へのポイント】

・子育て環境改善部と連携しながらより広報範囲を広げていき、情報が届きにくい方へアプローチをしていく。

・助産師さんに入ってもらい、妊娠中の方が必要としている情報が何かを学ぶ機会を作りスタッフのスキルアップにつなげ、相談や情報提供に繋げる。

・半期ごとに振り返りをして課題と達成状況を確認する。

・新規イベントにはアンケートを実施し、ニーズに合わせた内容を検討、見直し実施につなげる。

子育て支援部(わはは・ひろば香西)

《令和2年度 事業計画》

わははネット チーム別事業目標(目標書式Ⅱ)

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
わはは・ひろば香西	8,152,000 円	4 人	6800 人

【年度の行動目標】

2020 年度

主	地域の人と楽しめるひろばへ	今期の重点行動予定	SDGs 関連
重点項目	① 子育て世代のニーズに合わせた情報発信	各SNSで目的別に情報発信 iPadを使い、子育て情報、あそび方の提供	11
	② 利用者地域とのつながりづくり	ボランティアの募集 シオンの丘デイサービスさん訪問	11
	③ より多くの人の利用につなげるイベントを企画・開催	地域の人を巻き込んだイベントの開催 近い月齢児との交流イベントの開催 妊婦さん同士の交流イベントの開催	4 12
	④ スタッフが地域に出てひろばの認知を広げる	子育てサークル訪問 地域向け通信配布(ポストイン) 産婦人科の母親学級、4 か月児相談訪問	11
	⑤ スタッフのスキルアップ	ひろば内で勉強会を開催 チームワークづくり	8 17

【事業チームとしての行動計画】

- ①週 1 回インスタにて地域のお出かけスポット、イベントをアップ
- ①月に 1 回ふれあいあそび等の動画を撮影、iPadにて収集
- ②ボランティア目標人数 10 名登録
利用者や、卒業した利用者に声掛け、地域に向けてチラシ・SNSを使って呼びかけを行う
- ②シオンの丘デイサービスセンターさんに年 6 回の訪問を継続的に行う(5 月、7 月、9 月、10 月、1 月、3 月)
- ③地域交流イベントを年 4 回開催 (6 月運動会 8 月夏まつり 10 月ハロウィン 3 月お茶会)
- ③1 歳児向けイベントと 2・3 歳児向けイベントを毎月 1 回交互に行う
- ③プレママ&赤ちゃんひろばを月 2 回行い、体重・身長を測るなど継続利用につなげる
- ③妊婦さんの会を毎月 1 回開催 フォトやアルバムづくりで新規利用を促す
- ④前期中に子育てサークル 4 か所を訪問し新規利用につなげる
- ④年 4 回配布 地域イベントに合わせ、ひろばを知ってもらうための通信を作成しご近所などはポストイン、毎月の通信と合わせて配布する
- ④産婦人科の母親学級、4 か月児相談に月 1 回訪問しひろばの周知に努める
- ⑤ひろば内勉強会を月 1 回開催し、ひろば利用者の状況をスタッフで共有し CN と連携し支援を行う。
- ⑤3S活動を月 2 回行う。(情報ファイル、ひろば・業務 各 1 回)

【計画達成へのポイント】

MT等の時間を活用し、計画をたて、1カ月前には内容等も練られた状態にしておくこと。

子育て支援部(さかいで子育て支援センター「まるっ子ひろば」)

まるっ子事務

《令和2年度 事業計画》

わははネット チーム別事業目標(目標書式Ⅱ)

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
まるっ子事務	5,742,000 円 200,000 円 (フェスティバル)	1 人	延べ 14,000 人

【年度の行動目標】

2020 年度

主	幅広い人の利用を促す	今期の重点行動予定	SDGs 関連
重点項目	①安心・安全の確保	スタッフも地域の防災訓練に参加して、防災意識を高めるとともに、地域の方々と交流を深め認知度を高める。 1F 交流スペースの整備や安全管理を徹底する。	6、9、11
	②利用者の視点にたった運営	子ども、保護者、地域の方が利用しやすい、役に立つ施設を目指して企画運営を進める。リサイクルや産直販売は必要とする層へ届く告知をする。また、ボランティアなども募り、地域の方の活躍の場を提供する。	3、4、16、17
	③連携機能の強化	第5回フェスティバル開催に向け、地域の子育て支援団体と連携して交流を深めるとともに、ふりかえりて出た意見を見直し、開催内容を改善してもっと家族で参加しやすいものにする。	1、3、4、12、
	④民間ならではの柔軟で機敏性のある運営	アンケートや窓口で利用者の声を拾い、館の整備や運営に反映させていく。 移動図書館活用	1、3、4、5、8

【事業チームとしての行動計画】

- ①毎朝のトイレ掃除と日中のチェック、週1回以上はおもちゃ拭きや床拭き等衛生管理を徹底する。
- ②屋外ひろばや交流スペースをより活用できるよう、5月のスタッフMTGでアイデアを出しを行い実行する。
- ③屋外ひろば&交流スペースのみの年間利用者数を記録し、今後の企画や運営に活かす。
- ④朝の会及び月2回のスタッフ会議で、館・ひろば・CNの取り組みや進捗状況を共有し、連携して動く。
- ⑤前年度の振り返りて出た改善点を盛り込んだ内容を行う。
- ⑥移動図書館に来てもらい、近隣の人にも利用してもらうように広報を行う。
- ⑦夜ひろばを開催し、地域の人今まで利用できなかった人等、幅広い層の利用を促す。
- ⑧館としての年間恒例行事や、畑作業なども盛り込んだ予定表を作成し、館内外への掲示や配布、HPなどで利用者及びまだ来たことがない方へのPRをする。

【計画達成へのポイント】

- ・業務の見える化を図り、情報を共有してスタッフだれでも利用者に対して同じ対応ができるようにする。
- ・1F 交流スペースの管理業務が増えた分、定常業務の精度を向上して効率的に業務を行えるようにする。
- ・地域の方や公民館の方と連携を取り、イベント開催や防災にも繋げるために、わははやまるっ子を身近に感じ日頃から来館してもらえよう、産直の案内や通信配布、畑の作業や野菜の配布などして認知度を上げる。

子育て支援部(さかいで子育て支援センター「まるっ子ひろば」)

まるっ子ひろば

《令和2年度 事業計画》

わははネット チーム別事業目標(目標書式Ⅱ)

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
子育て支援部 まるっ子ひろば	7,453,000 円	4 人	10,000 人

【年度の行動目標】

2020 年度

主	つながりの輪をひろばから	今期の重点行動予定	SDGs 関連
重点 項目	①情報発信	ひろばのことが分かる、ひろばへの興味がわくような記事を毎日 Instagram にアップする。	3
	②つながりの場の提供	つながり作りをテーマにしたイベントを開催する。	4 17
	③幅広い層への認知を広げる	地域資源を活用し、ひろばを知ってもらえる場を増やす。	11
	④ボランティアの活動の場を作る	活動内容やルールなど明確にし、仕組みを作り運用する。	5

【事業チームとしての行動計画】

- ①目を引く写真の撮り方や記事の書き方などの勉強会を、スタッフ間で年2回(前期・後期1回ずつ)行う。
新規登録者で Instagram を見て利用につながった人の割合を40%目標にする。
- ②親子・子ども同士・親同士・地域など、様々な関わりが持てるイベントを月5回以上開催する。(年度の会・音楽ひろば・赤ちゃんひろば・スイーツの会など)
- ②毎朝スタッフミーティングを行い、スタッフの役割や環境設定、何のための活動かの目的をすり合わせ、スタッフ皆で確認する。
- ③1歳6ヶ月健診で年度の会やわんぱくあそびのような年代に合わせたチラシを作成し配布する。
- ③イベントの報告やひろばの様子がわかるポスターを作成し、林田公民館、中央公民館、松山公民館、加茂公民館に貼る。
- ③地域のイベントに参加する。(子ども食堂、地域の避難訓練・松寿祭など)
- ④卒ひろば後も関わりが持てるよう、ボランティア募集のお知らせも兼ねて、お便りを年2回送る。
- ④卒ひろばの方へのお便りや、ボランティア募集のポスターを館内・公民館に貼り、ボランティアを募る。(新規メンバー人数の目標3名) イベント前にスタッフとミーティング、イベント後に振り返りを行い、活動する。(東中ふれあい事業、イベント、ひろばなど)。

【計画達成へのポイント】

- ・振り返りを半期に一度行い、内容、行動計画を再考する。
- ・ひろばアンケート、地域に出向いた際にヒアリングを行い、実際の意見の抽出を行う。
- ・朝のミーティングを確立させ、イベントノートや振り返りシートを活用し目的や内容が誰がみても分かるようにし、スタッフ同士の連携をはかる。

子育て支援部(さかいで子育て支援センター「まろっ子ひろば」) 一時預かり

《令和2年度 事業計画》

わははネット チーム別事業目標(目標書式Ⅱ)

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
まろっ子ひろば 一時預かり	1,473,000 円	1 人	新規 60 組 枠数 580 人

【年度の行動目標】

2020 年度

主	新規利用者を増やす	今期の重点行動予定	SDGs 関連
重点 項目	①広報を行う	SNS の活用を工夫する	17
	②子育て家庭のニーズを満たす	子ども一人一人の個性を大切に、居心地の良い場所をつくる	4
	③スタッフのかかわり	保護者の子どもへのかかわりや家庭での様子を視野に入れて保育する	16
	④スタッフ連携	ミーティング、記録の活用	17

【事業チームとしての行動計画】

- ・必要に応じて随時コーディネーターと連携し、支援内容の共有。定期的にコーディネーター、拠点スタッフとのケース会を実施。
- ・毎週月曜日に保育内容や子どもの様子を Instagram にUPし、一時預かりについて認知してもらうことで新規利用者獲得を目指す。
- ・前年度から引き続き、1 歳 6 か月健診の通信に一時預かりのチラシを挟み込む。
- ・保育をしていく中で、子どもの変化や成長したことを保護者に伝え、喜びを共有し、共に育てる。

【計画達成へのポイント】

- ・前期・後期に一時預かり利用者に、Instagram を見て預けようと思ったか、保育の様子を想像できたかのアンケートを取る。
- ・朝の MT での情報共有、一時預かり日誌の活用。子どもの様子、保護者の様子や連絡事項の記録をとる。

子育て支援部(さかいで子育て支援センター「まるっ子ひろば」 坂出子育て支援コーディネーター事業

《令和2年度 事業計画》

わははネット チーム別事業目標(目標書式Ⅱ)

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
坂出コーディネ	6,732,000 円	2 人	1200 人

【年度の行動目標】

【年度の行動目標】			2020 年度
主	子育て家庭が利用者支援事業を通して、様々な支援者と出会う	今期の重点行動予定	SDGs 関連
重点項目	①利用者親子の体験を増やす	地域の方や近隣施設協力のもと参加型イベントを企画し、親子ともに様々な体験が得られる機会をつくる。	4 5
	②多様な家族の支援	当事者(予備軍)と専門家と直接つながる機会をつくる。また広報活動により、当事者以外の子育て家庭が知る機会をつくる。通常開館中には繋がりにくい層に向けて、交流の場を提供する。	16 3
	③相談支援の充実	多機関と協力し相談会を実施、利用者が様々な相談機関と出会える場を提供、情報発信により広く周知する。専門職による SV の実施や研修受講などによりスタッフのスキルアップをはかる。	3 16
	④多機関連携の強化	他機関と顔の見える関係を構築し、相談会の実施や個別支援につなげる。	17

【事業チームとしての行動計画】

- ・それぞれのイベントにより関心を持ってもらうために、今までの様子やこれからの予定などが分かるように発信・広報し、参加を促す。そして継続イベントに関しては、参加率2割アップ(前年比)を目標とする。
- ・関係機関と協働し、新規イベントを開催する。イベントを通して、楽しみながら地域の支援者と出会う機会を提供する。
- ・cn ケース振り返り、拠点合同ケース会の機会をそれぞれ月1回設け、支援内容の共有と役割分担を明確にする。子どもの発達に関するケースについては、ふじみ園 SV にて専門家のアドバイスを受け、支援につなげる。
- ・SNS の活用や広報のポイントなどの内部研修を定期的に行い、情報提供の質の向上を図る。

【計画達成へのポイント】

- ・各種 SNS にいつ、どのような記事を書けるかという掲載計画を立て、記事を漏れなくアップできるようにする。
- ・他部署との連携において、毎週月曜日の朝礼時に今週の予定を共有する。拠点の振り返りに参加する。
- ・積極的に他機関へ出向き、近況報告や情報収集などを行い、顔が見える環境作りに努める。
- ・利用者支援事業に関わる研修を受ける。

※地域で共育(香川县委託事業)実施

子育て支援部(地域子育て支援コーディネーター事業)

《令和2年度 事業計画》

わははネット チーム別事業目標(目標書式Ⅱ)

チーム名	事業費	スタッフ数	利用者数・目標
子育て支援部(地域子育て支援コーディネーター事業)	7,389,000 円	2 人	5,500 人

【年度の行動目標】

2020 年度

主	学童期も含めた家族支援	今期の重点行動予定	SDGs 関連
重点項目	① 多様な課題を持つ家族への支援	多様な(ひとり親・ダブルケア・不登校・メンタルヘルスの不調)課題を持つ家庭が、同じ境遇の人と話せる場をつくる。必要な情報を得られるようにする。【座談会・講座】	1・3・10
	② 出会い・体験の機会をつくる	生活に密着した体験活動を行い、家族同士が交流できるものにする。	4・10
	③ 情報発信	昨年度から月1回発信しているHPの内容に、学童期の情報も含める。	3
	④ 多機関との連携	学童期の子どもも含めた家庭を、包括的に支援するために、適切な時期に支援につながるようにする。	1・3・4・10

【事業チームとしての行動計画】

◆目標数値：コーディネーターとして、学童期の子どもを育てる家庭と関わる事を10家庭とする。

- ① ・年間計画を策定し、各場の提供を定期的に設ける。
・イベント目的を明確にし、毎回アンケート調査を行う。満足度を5段階で評価してもらい、平均4点以上を目標とする。
- ② ・体験活動を実施し、ほかの親子、多くの人(支援者・利用者)との出会いを作る。併せて子どものソーシャルスキルを獲得。様々な環境の子どもも、共に体験する機会を増やす事につなげる。
・設定予約数に対し8割の参加数を目標にする。
- ③ ・月に1回、時期に応じた内容で発信する。その中に、学童期まで見据えたものを入れる。
- ④ ・ケースプラン検討の際に適切かつ必要な支援につなげられるよう、各機関の役割を知るため、他機関が行う様々な研修や会議に参加する。
・今まで関わる事のなかった児童発達デイサービス、学校教育相談事業などの見学を行う。

【計画達成へのポイント】

- ① アンケートで参加者のニーズを拾い、常に改善しながら開催することで満足度を上げる。
- ② 交流が図れるような内容にするとともに、参加者がつながる環境設定をする。
- ③ 月に1回必ず配信する。
- ④ 関係機関を情報提供のみにとどまらず、機関の役割を知り利用できるようにする。

※ドコモ市民活動団体助成事業申請中(すべてのひとり親家庭を孤立させないための連携と、支援者育成)